

1. 発電所の状況に関する Q&A

QA1 東京電力福島第一原子力発電所の状況について教えてください。

平成 23 年 12 月、ステップ 2 が完了したと判断されました。今後は、1～4 号機の廃炉に向けた取組を、国内外の叡智を結集して実施していきます。

平成 23 年 12 月、専門家による検証作業を経て、「東京電力福島第一原子力発電所・事故の収束に向けた道筋」^{※1}のステップ 2（放射性物質の放出が管理され、放射線量が大幅に抑えられている状態の達成）が完了したと判断されました。

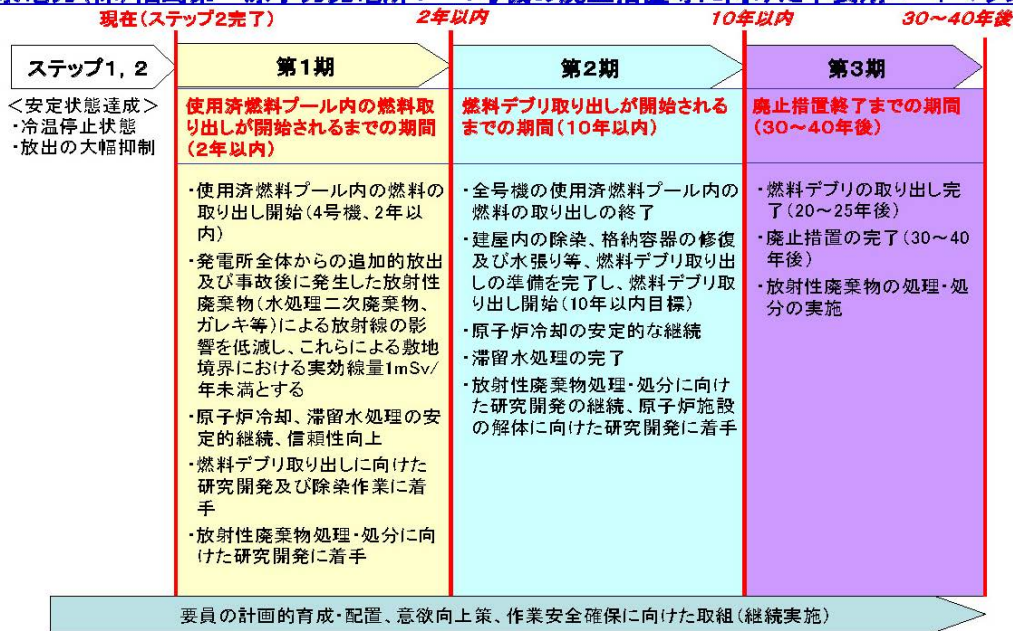
この際、地震や津波の襲来等万一不測の事態が発生し、原子炉への注水が停止したとしても、敷地境界における被ばく線量が十分低い状態を維持できるようになったこと、「冷温停止状態」^{※2}に達したことを確認しています。

また、その後も原子炉の温度、圧力、格納容器からの追加的な放出量等をモニタリングし、総合的に冷温停止状態が継続していることを確認しています。

現在、1～4 号機の廃炉に向け、「東京電力（株）福島第一原子力発電所 1～4 号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」^{※3}に基づき、政府と東京電力が一体となって全力で取り組んでいます。当面の最優先課題である 4 号機からの燃料の取出しについては、原子炉建屋上部の瓦礫撤去を完了し、引き続き燃料取出し用カバーの本体工事等の作業を着実に進めています。

1～4 号機の廃炉へ向けた取組は、世界でも例のない困難な技術課題を多く含みますが、政府・東京電力中長期対策会議の下に設置された「研究開発推進本部」において研究開発の進捗を管理すると共に、国内外の叡智を結集して実施してまいります。

東京電力(株)福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ概要



※1:平成23年4月決定。 <http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/0417roadmap.html>

※2:「冷温停止状態」:下記の3つを満たしている状態をいう。

- ① 圧力容器底部の温度が概ね100度以下になっていること
- ② 格納容器からの放射性物質の放射を管理し、追加的放出による公衆被ばく線量を大幅に抑制していること
(敷地境界において1ミリシーベルト/年以下にすることを目標(平成24年10月時点で0.03ミリシーベルト/年))
- ③ 上記2条件を維持するため、循環注水冷却システムの中期的安全(設備の信頼性(多重性と独立性等)の確認等)を確保していること

※3:平成23年12月決定、平成24年7月改訂。

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/roadmap/index-j.html>

統一的な基礎資料の関連項目

下巻 第6章 12ページ「現在の原子炉の状況」

出典:復興庁「避難住民説明会等でよく出る放射線リスクに関する質問・回答集」より作成

出典の公開日:平成24年12月25日

本資料への収録日:平成25年1月16日